



ベネズエラ出身の友人と

助けてくれる人も大勢いる。その意味では人間は一人だけで生きていくことはできない。しかし、最終的には自分でアクションをおこさなければ、何もできないのである。考えてみれば、大学では自分で考えさせるような授業を行っている。無意識のうちにはUWCで学んだことが表れているのかもしれない。

コミュニケーションモードの切り替え

もう一つ、これは答えなかったと思うが、外国人(基本的には西欧文化圏の人々ということになるだろうが)とのコミュニケーションの仕方と日本人とのコミュニケーション

の仕方である。UWCでの体験のお陰で、一九八二年から一年間ドイツに留学したときには最初から問題なく学生仲間にとけ込むことができた。その後、計二年ほどドイツで研究滞在したが、コミュニケーションギャップを感じることはなかった。

また、外国人とのコミュニケーションの仕方がわかることで、日本人とのコミュニケーションの仕方を相対的に見られるようになったと思う。違いが実感としてわかるのである。相手を気遣う、謙虚である、あまりストレートには言わないといったことが、やはり、日本社会では重要なのである。その時々に応じてコミュニケーションモードのスイッチを少しでも切り替えられるようになったこと、その原点もUWCである。

UWCで何を学んだか、答えを求められればこのようなことになるが、本当のところはわからない。一生涯を通じて人はいろいろなきにいろいろなきことを学んでいくのである。それでも、UWCでは本当に多くのことを学び、私の人生にとって本当に貴重な体験をさせてくれたと信じている。そんなUWCである。もし、もう一度あの岐路に立ったなら、あのときと同じように迷うことなくUWCへの路を選ぶだろう。

中央公論 5月号 発売中!

定価800円(税込)

〒104-8320 東京・京橋2-8-7 中央公論新社
TEL 03-3563-1431

特集	脳力を極める	天才棋士の思考術 頭が良いとは どういうことか
	最新脳科学が教育を変える 齋藤 孝×池谷裕二 「読み書き計算」で認知症を予防・回復しよう 川島隆太 〈ルポ〉「脳トレ」ブームの活かし方 西所正道	なぜ脳なのか 養老孟司

日米同盟を脅かす慰安婦発言 岡本行夫/M・グリーン/加瀬みき

世界金融危機は再び来るか? 竹森俊平 **下流の家族崩壊** 赤坂真理×斎藤環/山田昌弘

人生の岐路

大阪大学言語文化研究科准教授

渡辺伸治

わたなべ しんじ



一九七八年UWC英国アトランティックカレッジ卒。
八四年東京外国語大学ドイツ語学科卒。八七年東京大
学大学院博士課程(独文)中退。東京大学助手を経て現
在に至る。

UWCへの入学は 人生最初の岐路

人生には大きな岐路がわずかではあるが
必ずある。どちらの路を行くか大きく迷う
こともある。私にとって人生最初の岐路は
UWC of the Atlantic への入学であった。

神奈川県立高校の一人の平凡な高校生だっ
た私は理系コースにおり、将来は漠然と理
系の学部に進学すると思っていた。ただ、
外国に対する憧れ、英語に対する興味だけ
は人一倍大きく、二年上りのところが高校
生のとき交換留学でアメリカに一年留学し
たこともあり、自分も留学したいという気
持ちは徐々に大きくなってきた。そんなと
き知ったのがUWCである。受かるとは思
わなかった。が、結果は合格。

一九七六年の九月、私は初めて乗る飛行
機で羽田を後にし、アンカレッジ経由でロ

UWCで身につけた独立心

ンドンに向かった。英語がほとんど話せず、
シャイな高校生であった私にとっては最初
は苦勞の連続であった。それでもだんだん
と英語がわかるようになり、徐々に親しい
友もできるようになった。スペイン語の授
業を取っていた縁で親しくなったスペイン
語圏の友、中学生のときにやっていた卓球
のお陰で親しくなった友。一九七七年の夏
休みには、友人を訪ねてノルウェーのオス
ロからスペインのマドリッドまでさまざま
な国を訪れた。クリスマスは二回ともドイ
ツで過ごした。二年はあつという間に過ぎ、
別れの日にはセンチメンタルな涙を流した
記憶がある。

あれから三〇年、私は、今、大阪大学で
学部の一、二年生にドイツ語を教えながら、
大学院で言語学を講じている。毎日の仕事、

●(社)ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日
本協会は、世界各国から派遣されてくる生徒たちと
の教育体験の共有により、国際感覚豊かな人材を養
成するという理念を掲げるUWCの日本委員会とし
て、毎年一〇名前後の高校生を世界各地にある
UWC傘下の高校に派遣し、すでに四〇七名の卒業
生を輩出している。

生活に追われ過去のことを振り返ることも
あまりない。それでも、時には昔のことを
ふと思い出すこともある。

去年、今年と続けて関西でのUWCに関
する高校生向けの説明会にも出席した。去
年の説明会では、出席者からUWCに行っ
てどのようなことを学んだかという質問が
あった。いったい何を学んだのだろうか。U
WCのみで学んだことなどあるのだろうか。
学んだことを具体的に列挙できるのだろうか
か。質問は、何を学んだかではなく、何を
学んだと思っているかということになるだ
ろうか。

いろいろなことを考えたが、結局、答え
たことは独立心である。英語がほとんどわ
からないわずか一七歳の少年が、珍しい留
学生としてお客様扱いなど絶対にしてけれ
ないUWCの環境に突然一人で置かれれば、
否が応でも独立心は育たざるを得なかった
と思う。何をするにも自分で考え、自分で
決め、自分で行動し、結果は自分の責任に
なるということである。もちろん、いろい
ろなレベルで助言をしてくれる人、実際に